

# 先人の知恵から

## 11

かうんせりんぐるうむ かかし

河 岸 由 里 子

あっと言う間に1年が終わろうとしている。1年を短いと思うのは毎年だが、1年を長いと思っていた時期があったろうかと思り返してみた。

恐らく小学生だったろうか、「早くお正月が来ないかな」と待ち焦がれていた時などは、時の流れを遅く感じたのを覚えているし、小学校の6年間は長かった記憶がある。

子育てをしている間も、小学校の6年間は一番長かったように思う。また、子どもが乳幼児の時も、手がかかっている間は、何となく1年が長い気がしたと思う。

何故だろうか？乳幼児を育てている間も日々忙しかったはずである。忙しさは関係ないのかもしれない。むしろ、「早く過ぎて欲しい」と思っているからこそ長く感じるということなのだろう。

今はきっと、もう少し時間が欲しいと思っているからこそ、早く過ぎて行ってしまおうと感じているのかもしれない。少しスピードを緩めようと改めて思う。

さて今回は次の7つを挙げてみた。

- 得難きは時、会い難きは友
- 枝を矯めて花を散らす
- 画に描いた餅
- 遠親は近隣に如かず（明心宝鑑）
- 遠水近火を救わず（韓非子）
- 偃鼠河に飲むも満腹に過ぎず
- 縁の下の力持ち
- 縁は異なるもの

### <得難きは時、会い難きは友>

良い機会<sup>うがた</sup>は中々捉えにくく、良い友<sup>とも</sup>には中々巡り会えないということ。

自分の思い通りのチャンスなど、中々出会えるものではないが、だからと言って諦める必要もない。いつかはその時が来ると信じて待つことも大切だろう。近頃の子ども達は、何かと言うと直ぐ諦めてしまう。世の動きが速い事もあって、待つことが苦手になっているように思う。きっといつか、最高のチャンスが訪れる。それなのに、人生そのものを諦めて自ら命を絶ってしまう事さえある。10年やそこいらで、人生をすべて諦めてしまうのは余りにも早計だろう。

一攫千金と言う意味ではなく、人生にとっての最高のチャンスは、その人それぞれ何がそれに当たるか違うだろうが、きっと誰にでも訪れる物ではないかと思う。それをしっかりと掴む事が出来れば、人生が一段と面白くなるだろう。でも欲張って、もっと良い機会がある筈と次を待っていると永遠に来なかったりする。その選択は難しいかもしれないが、小さな運でも逃さないように掴んでいくことが大切ではないかと60年余りを生きてきて思う。

そして、良い友にも中々出会えないのも真である。信用し、裏切られ、それを繰り返す、友達など要らないと思う。こうして一人で居ても、寂しくなって又友達を作ろうとする。時々見かけるのだが、友達選びで中々自分に合う子を見つけられない子がいる。勿論付き合ってみなければわからない話ではあるが、憧れから付き合っ、結局意地悪をされ、ずたずたに傷ついている

のに、まだ付き合おうとして居る子に出会う。憧れるのは分かるが、そういう人間が自分に合うかどうかはまた別の問題である。

一人で居る強さも必要だが、かと言って一生一人で生きていける程人は強くもない。傷ついて学び、強くなり、いつか本当に信じられる友達に出会えると信じながらその時を待つ、友達作りとはそんなものだと伝えるが、我々はそんなことを親や他の大人から学んだことなどない。本や実体験から学んできたのだと思う。子ども達にも、本や実体験から学んでほしいものだ。

### <枝を矯めて花を散らす>

小さな欠点を直そうとして、かえって一番大事なものを駄目にしてしまう事の例え。枝ぶりを良くしようとして、花を駄目にしてしまう意から。

親は子どもの欠点ばかりを見て嘆いているように思う。「だらしない」「片付けてくれない」「朝起きない」「勉強をしない」「準備が出来ない」など等、生きて行くと言う意味だけであれば、たいしたことではないのだが、日々の生活を預かる保護者としては、大事件の様である。

親が一般的に子どもを見過ぎているせいもあるのだろうが、小さいことに気付く。幼児や小学校1年生ならともかく、大きくなってからも細かいことをあれこれ注意する。必要最低限の躾は大切だが、余り細かいことを言いすぎると、子どもが強迫的になったり、不安になったり、自信喪失して自己

評価を下げてしまったりする。一旦強迫的になるとか、不安が強い子になっているのを治すのはとてもエネルギーがいる。もっと伸び伸びと育てていけば、きっと大きな花を咲かせられたのと思う青年にも度々会う。目が行き届くと言うのも中々罪な話である。かといって、放置して大変なことになってしまっても困る。何事も程々の所でやって貰えればと思う。

#### <画に描いた餅>

実際の役に立たない事の例え。計画などが実現する見込みが無い事の例え。画に描いた餅はどんなに美味しそうに描けていても、食べられない事から。「机上きじょうの空論くうろん」「豊とよの上の水練すいれん」も同義。

この諺を良く使ったり、思い出したりするのは、教育関係の計画や行政計画などを見た時である。誰かの公約だとか、何かの計画には、理想ばかりを並べ立て、何の実践的行動計画が伴わない物も多い。

例えばいじめ撲滅のキャンペーン一つをとっても、余り具体的ではない。いじめは悪い事だと言って見ても、どこまでが「からかい」で、どこからが「いじめ」かなど、子ども達には分かり辛いし、いじめた結果に対し、責任を取らせるにしても、その子の年齢に応じて、どのように取らせていくのかなども分からない。

国会で堂々と野次を飛ばしているし、からかいはじめは大人の社会でもはびこっている中で、子どもにだけ禁止しても、悪

い見本を散々見せているのだから、所詮上手く行くわけもない。

絵に描いた餅は食べられない。誰の空腹も満たすことはできない。そんな餅をいくつも描いて、皆お腹いっぱいになっただろうと思っている人たちが余りにも多くて嘆かわしい。

世の中には、この手の問題が多すぎる。子どもの貧困にしろ、母子家庭の問題にしろ、教育にしろ、原発にしろ、もっと現実的で、実践的な行動計画をしっかりと作って行かなければ、子ども達の未来は危うい。そんな風に思っているのは筆者だけだろうか??

#### <遠水えんすい近火きんかを救わず・遠親えんしんは近隣きんりんに如かず>

この二つの諺は元々一つの文章からの出典。

どんなに有用なものでも、遠くにあるものは急場の役には立たない事の例え。水はあっても遠くでは目の前の火を消すことはできないし、遠くに居る親戚より、近所に居る他人の方が、いざという時には頼りになるという事。出典は韓非子及び明心宝鑑。

世の中には、色々なシステムが構築され、困った人たちの助けになっている。しかし、それが全国各地、津々浦々に作られているかと言うとそうでもない。ある地域には、色々な資源が揃っていても、他の地域に行くとなにもないと言うようなことは尠ある。新しいものが次々作られていくような、

豊かな時代ではない。国が借金まみれの今の時代に、行政が、お金を出してあれこれ作ってくれると思う方が甘い。

これからは、創意工夫で頑張らなければならない時代である。近くにある使える資源をどう掘り起こし、どう活用して行くか。そうした知恵が我々支援者には必要である。お金も出来るだけかけずに上手くやるには、昔ながらの方法を活用することも考えねばならないだろう。例えば、町内会であるとか、長老の知恵であるとか、助け合いの精神であるとか。日本人が昔から持っているものの中にも、支援として使えるものがまだあるのではないかと今一度近くの資源を考えてみたいと思ってこの諺をあげた。

英語では・・・

Water afar off quenches not fire. (遠くの水で火は消せぬ。)

### ＜<sup>えんそ</sup>偃鼠河に飲むも満腹に過ぎず＞

<sup>えんそ</sup>偃鼠はモグラの事。人はそれぞれの分に  
応じて満足すべきだと言うことの例え。身の程を知るが良いという事。モグラが大きな川でどれだけ水を飲んでも、腹いっぱい以上は飲めないという事から。出典ではこの前に<sup>そうりんいつし</sup>「巢林一枝」(ミソサザイは深い林に巢を作るが、巢を作るのに使うのは枝一本だけである)がある。「巢林一枝」も同義語。出典は莊子。

「分相應」と言う言葉がある。カードロ

ーンに限らず、ローンをそう簡単に組めなかった時代に育った筆者としては、借金をすることに対して凄く抵抗感がある。だからカードは殆ど使わない。空港ラウンジを使う時や、アマソンの1クリックを使う時くらいのものだ。現金主義で通してきた。そうすると、お金を貯めて、そのお金で買える物ということになり、分相應の者になってくる。

最近、色々なところで夫婦の問題に携わるが、いざ離婚となると、正の財産と負の財産の整理がある。「負の財産はありますか?」、つまり {借金はありますか?} と聞いているのだが「ありません。」と言い切り、「車のローンとか家のローンとかありませんか?」と聞きなおして初めて、「ああ、車のローンはあります。」などと言ってくる場合がある。カード決済も同様なのだが、借金とっていない。

そうなる、ちまちまとお金を貯めて買うわけではないので、結構高い買い物をすることになる。

家、服飾品、車、何もかもが、かなり高価なものになる。一回の支払いは払える範囲でなければ困るが、火の車になっている人もいて、拳句に自己破産することまである。以前にも書いたと思うが、国も借金の上に成り立っているところを見ると、「分相應」の国になっていないと言う事か。

大人が悪い見本を沢山見せていけば、子ども達の間も感覚も変わってくる。子ども達の間も物欲も激しいし、商戦に乗せられて、次々と新しいゲームを買っている保護者に出会う事も多い。毎日何時間も遊べれば、一つのカセットをすぐクリアしてしまうだろう。こうした物については、満足という感

覚が薄いのかも知れない。

お腹いっぱい水を飲めば、それで良い。  
お腹いっぱい食べたらそれで良い。そうし  
た、分相応に「満足すること」を国民全体  
で考え直さなければいけないのではと思う  
し、子育て支援の所でも伝えて行きたいと  
思う。

### <縁の下の力持ち>

人目に付かないところで他人のために苦  
労したり、努力したりする事。又そういう  
人の例え。折角の力持ちも、縁の下にいた  
のでは認められない事から。京都のいろは  
がるたの一つでもある。

我々対人援助職があるべき姿がこれだろ  
う。正面切って誰かを引っ張って行くのが  
支援ではない。「支えること」が第一である。  
誰に認められなくても良い。誰かを支える  
ことで、その人が頑張れば良いのである。  
その人がしっかり生きていければ良いので  
ある。でも時々、「私が」と前に出て、上か  
ら目線で物を言い、支援とは程遠い対人援  
助を行っている人に出会う。悲しい事だ。  
子育てであれ、高齢者支援であれ、家族を  
支えること、他人を支えることは、正に縁  
の下で頑張る事ではないだろうか。表に出  
るのは、主人公である家族や子どもや高齢  
者である。その人が立てるように、杖にな  
ったり、動けるように車いすになったり、  
考えられるように問題を整理して分かりや  
すくしたり、何をやるにも主体はご本人で  
ある。それを忘れないための諺として覚え

ておきたい。

### <縁は異なるもの>

男女の縁はどこでどう結ばれるかわから  
ず、まことに不思議なものだと言う事。「縁  
は異なるもの味なもの」ともいう。江戸のい  
ろはがるたの一つ。「愛縁奇縁<sup>あいりんきえん</sup>」も同義。

夫婦、或いはパートナー関係を見ている  
と、この言葉を思い浮かべる。何処で男女  
が知り合っているか？学生時代の知り合い、  
お見合いパーティーや合コンは普通だし、  
元々グループで付き合っていたと言うのも  
良くある話。電車やバスの中で知り合ったり、  
道端でぶつかることもあるだろう。さ  
だまさしの歌ではないが、雨宿りで出会う  
事もあるかもしれない。病院の看護師さん  
と患者さんの組み合わせ、職場結婚もちろ  
ろある。ペットが取り持つ縁もあるし、  
スポーツやスポーツ観戦がきっかけになる  
こともある。

特に今の時代はフェイスブックやツイッ  
ターで繋がったり、ラインで繋がったりし  
て、その結果結婚して居たりする。

どんな出会いであれ、日本に限っても数  
千万人いる対象者の中でたった一人と組み  
合わさったわけである。それを考えると、  
本当に不思議な縁を感じる。くじみたい  
なものだから、当たりくじも外れくじもある  
だろうが、縁を大事にするも台無しにする  
も、その二人次第。ずっと縁に恵まれず、  
死にたいと言っている女性にも出会った。  
そんな彼女に、「縁がある」と言う保障もで

きないが、「諦めるな」と言い続けている。  
今は50歳でも60歳でも或いは80歳でも、縁があるかもしれないのだから。

英語では・・・

Marriage is a lottery. (結婚はくじのようなもの) 又は、Marriages are made in heaven. (縁結びは天国でなされる)

今回はここまで。

出典紹介

韓非子 (?～前233年)

中国、戦国時代末期の思想家<sup>かんび</sup>韓非の尊称。

韓の公子(貴族の子)。荀子<sup>じゆんし</sup>に師事して

刑名学(法治主義)を学んだ。国の弱体化を憂い、国王をいさめたがいれられず、発奮して『韓非子』55編を著して法による政治を論じた。のち、秦に使いした時、謀略にあい自殺した。

明心宝鑑<sup>めいしんほうかん</sup>

中国明代に編まれた儒学を中心とした箴言集<sup>しんげんしゅう</sup>。箴言とは戒めの言葉。孔子をはじめとする中国儒学の先人達の名言を集めたもの。1368年に出版された。

荘子(生没年不詳)<sup>そうじ</sup>

中国、戦国時代の思想家。道家思想<sup>どうか</sup>の中心人物。名は周、字は子休<sup>しゅう あさな しきゅう</sup>。荘子は尊称で「そうじ」ともいう。儒教の思想に反対し、人為<sup>じんい</sup>を捨てて、無為自然に帰ることを説いた。老子と合わせて「老荘」という。著に『荘子』がある。